

ウシエビ養殖場経営状況調査

新里 勝也

1. はじめに

ウシエビは、沖縄で養殖が盛んに行なわれているクルマエビと同属で、クルマエビに比べ成長が早く、養殖管理が容易であるという点で注目されている養殖種である。養殖試験等の報告は既になされているので、今回はウシエビ養殖の経営面に的をしぼって聞き取り調査をすることにした。

2. ウシエビ養殖場の概要

B氏は一人でウシエビ養殖を始めて一年余である。現段階ではウシエビ養殖のみでは採算がとれないので畜産との兼業で行なっている。

養成池は、264㎡、495㎡、600㎡の3面、合計1,359㎡の面積である。取水は海水と淡水が適度に混ざり合った地下水をポンプアップして使用している。酸素供給は各池とも水車によって行なっている。毎朝夕一回ずつ投餌しながら池の管理を行ない、副業的に経営しているのが現状である。

3. 養殖実績（昭和59年1月～12月）

◦ 種 苗

3月（2万尾）、5月（2万尾）、8月（2.6万尾）、11月（2万）の4回、合計8.6万尾を台湾より購入。（価格は石垣までの運賃込みで一尾あたり約15円）

◦ 歩留り

3月種苗 43.8%

5月種苗 7.5%

8月種苗 23.2%

11月種苗 未出荷

※5月種苗は出荷直前（9月）に大量へい死（原因は酸欠によると思われる。）

◦ 水揚高（昭和59年1月～12月）

530 kg、3,000 千円、1 kgあたり平均価格 5,660 円

◦ 増肉係数

不 明

4. 経営収支概要

(単位：千円)

収 入		3,000	
支	種 苗	1,290	86,000尾×15円
	餌 料	942	ウシエビ用配合餌料 431円×1,900kg=818,900円
			マス用配合餌料 175円×600kg=105,000円
			オキアミ 174円×104kg=18,096円
出	光 熱 費	432	
	人 件 費	103	
	交 通 費	360	
	雑 費	252	
計		3,379	
利 益		△379	

5. 今後の課題

まず養殖技術を安定させることに尽きるが、少なくとも大量へい死をなくすること等、歩留りの向上が当面の課題である。そのためには次の3点が必要であろう。

- ① プロアーを設置し、酸欠を防ぐ。
- ② 中間育成池を設置し、稚エビ時の歩留りを高める。
- ③ 平方メートルあたりの放養尾数を徹底して守る。

6. 参考文献

照屋忠敬・他(1983)ウシエビ飼育試験 昭和56年度、沖水試事報

———(1984)ウシエビ飼育試験(2)昭和57年度、沖水試事報

———(1985)ウシエビ飼育試験(3)昭和58年度、沖水試事報

平沢 豊(1983)ウシエビ養殖業の現状と問題点(4)

養殖 Vol.20 No.8 緑書房